



福井大学教育学部附属義務教育学校

No.3

令和6年11月8日

学校だより

受け継がれていく学校文化！
～つながりあって学び合い、育ち合い～

後期課程 副校長 柳 博恵

令和6年度の後期がスタートしました。始業式では校長から「後期は実質4か月ぐらいしかない短い授業期間であること、1年生から9年生まで揃う式は今日で最後となること、アフリカのマラウイのこと」について話がありました。子供たちは目を輝かせて、校長の話に真剣に聞き入っていました。ここでは、校長講話を一部抜粋して紹介します。

秋休みにアフリカのマラウイという国にいました。飛行機で乗り継ぎも入れて片道22時間ぐらいです。ちょっと遠いですね。暑いですよ。太陽はお昼ごろには真上にありました。アフリカで一番貧しい国と言われています。道路も主要な道路は舗装されていますが、ちょっと道をそれるとただの土の道です。ポコポコです。家もほとんどが1階建てです。2階建てはないです。だから、空は広いです。学校はタン屋根のガタガタの学校でした。学用品などは全然ありません。

例えば、ある学校は一つの教室に100人いるんですよ。だけど実際来ているのは70人ぐらいで、来れないんですね。家の仕事とかしているから。あるいは学費が払えないからと言ってどんどん学年が上がるにつれて人が減っていくんです。

授業を見せてもらったのですが、本当に真剣そのものです。大変感動しました。「学校が好きですか。学ぶのが好きですか。」と聞くと、満面の笑みで「学校が大好きだ。」と答えるのです。学校でみんなで学習するのがほんとに楽しくなって。それが生きることそのものなんです。学ぶことが生きる喜びなんです。この学ぶことの喜びをみんなと一緒にこの学校でも味わいたいと思った次第です。

校長の話から感じたことや考えたことは各自それぞれありますが、日々の生活や学びについて改めて考えさせられました。当たり前の日常生活や学ぶ機会があることに感謝し、自分がこれからどのように学びに向かっていくのかをしっかりと見極めていきたいです。

本校は、脈々と受け継がれている研究体制があり、学び合いを大切にするコミュニティが存在しています。教師の学びの姿も子供たちの学びの相似形であるといえます。

人が替わっても受け継がれて、創られていく附属の学校文化。伝統的な学校行事を通して子供も教師も成長していく姿が見られます。いろいろ悩んだり、周りの人と相談したりしながら、より良いものを目指して活動を創っていく力は、これからの未来を切り拓いていくのに必要とされる力です。未来を創造していく力を附属の学校文化を通して着実に身につけていくと確信します。

夢や目標をもって、粘り強く最後まで挑戦しようとする態度を育てるために、私たち教職員一同、全力で子供たちをサポートしていきます。

〈子供たちの学びがつながる学校行事の様子〉

今年度も学校祭やふぞくスポフェスで、幼稚園から後期課程の子供たちが共に活動する場面が多く見られました。その縦のつながりもまた、大変意義深いものです。私たちの予想を遥かに超えて成長していく子供たちの姿に、今は頼もしい気持ちでいっぱいです。

こうした姿を掲載しましたので、ご覧ください。

【前期課程の綱引きに参加する園児】



【後期課程の体育祭に参加する5・6年生】



【前期課程のスポフェス】



【後期課程の文化祭(8年生の社創ブース)に参加する1~4年生】



【9年生の演劇】



【9年生の演劇を鑑賞する5・6年生】



【文化祭テーマ幕「ライラック」】



【9年生の学年合唱♪Gloria】

